

原稿②「たからもの」(近江八幡市立図書館 伊藤亜希子)

対象：小学校4年生 所要時間：約40分

みなさんこんにちは。

近江八幡市立図書館の伊藤です。

今日の〇時間目はブックトークといって、1つのテーマでいろいろな本を紹介します。面白そうだな、とかこれ続きはどうなるの?と思う本があったら、図書館に借りに来てくださいね。

今日のテーマは“たからもの”です。

みんなは「たからもの」をもっていますか。

私のたからものは、これです。何かわかるかな?人の肖像が描かれていますが、これは、『星の王子さま』という有名な本を書いたサンテグジュペリという作家と星の王子さまが描かれた50フラン、日本でいう1000円札のようなお札です。そう、お金です。昔、フランスに旅行に行った時に、『星の王子さま』の本が好きだったので、使わずに大事にとってあります。今フランスはユーロというお金に替わっているので、手に入れることができません。今日は、色んなたからものを本で紹介したいと思います。

この『とどろヶ淵のメッケ』の本に出てくる主人公、メッケたち河童にとっていのちと同じくらい大事なたからものは「水」でした。ところがある日、そのたいせつな水がなくなってしまいます。

メッケは、竜ヶ滝の水が落ちてくる、とどろヶ淵とよばれるところに住んでいました。

どうしてメッケという名前がついたのかというと、それは、メッケが特別な目をもっていて、どんなに遠くの出来事でも、どんなに小さなものの動きでも、見逃さず、なんでも見ることができる千里眼の持ち主だったからです。

毎年、川を上っていった竜神沼では、川じゅうの河童たちが集まってリーダー、頭領を決めるため、大相撲大会が開催されます。

大相撲大会の3日目、メッケが留守番をしていると、滝が流れてこなくなっていることに気が付きます。

水が流れてこなければ、一大事です。メッケは水の底から出て、どうなっているか確かめにいきました。

そして、「山の上のほうで、きっと何か大変なことが起こっているにちがいない」と考え、川の上流を目指して出発します。

木々の間を歩いていた時、ポキパキと枝の折れる音がきこえ、目の前に大きなメスの大イノシシが現れました。大イノシシは迷子になったこどもを探していましたが、メッケはなんでも見つけることができる特別な目で、大イノシシの大切なイノシシのぼうやを見つけてあげます。大イノシシは、「あたしの大事な宝物を、とり返してくれたお礼に、もう一つの大切な宝物をあげよう」といって、片手ですっぽりとにぎれるほどの石をくれます。これはただの石ではなく、イノシシだけが見つけられる、石の王様の卵でした。

大イノシシは、「この石は、持ち主を3回助けてくれる」といって、林のおくに消えていきま

す。

そのうちに、強い陽ざしが照り付け、メッケの体は、すっかりかわいてきます。

メッケの力の源である頭のお皿の水もなくなってきました。

メッケは、水のない川底で力がなくなってバタリと倒れこんでしまいますが、イノシシからもらった石の王様の卵をそっとかざして「石、石。どうか、ぼくを助けて」とつぶやくと石が雨が降らし、助けてくれます。

夜のうちから休みなく歩き続けていたメッケは、藤淵で、ソッカという名前の河童に出会います。

ソッカは、メッケに昔から先祖代々に言い伝えや記録が書かれた巻物を見せ、今から321年前の7月に竜神沼の底が抜け、滝が止まった時、河童の頭領が、水をとりもどし、川の流れが戻ったと書いてあると教えてくれます。けれども、どうやって水を取り戻したのかということは書いてありませんでした。

メッケとソッカは、どうしたら、水を取り戻すことができるのか、謎の答えを見つけるために、一緒に竜神沼を目指すことになりました。

二人はやがて、やせっぽちとふとっちょのヨイショとコラショに出会います。

この二人も加わって、一緒に竜神沼を目指していたところ、うす暗がりの中から黒い影が現れ、4人を追いかけて、メッケの肩をつかまえました。

その場面を読んでみます。(p114、1行目から後ろから4行目まで)

メッケは、石の王様の卵をにぎり、必死に助けを求めます。実は、この影、321年前の昔の出来事と関係していたのです。この影の正体がわかったとき、全ての謎が解けることになるのですが、この先、メッケたちがどうなるのか、続きは読んで確かめてください。

水は河童だけでなく、人間や生き物に欠かせないからものです。水がないと生きていくことができません。私たちが使う水道水はどこからきているか知っていますか？そう、琵琶湖ですよ。その琵琶湖のほとりで水とともに暮らしているおじいちゃんのお話です。

おじいちゃんの名前は田中三五郎さんといいます。三五郎さんは、琵琶湖にそそぎこむ川のほとりで、もう60年以上も漁をしています。

三五郎さんが漁をする場所は川はばがひろくなっている河口です。いりくんだところには、ヨシが生えて、ヤナギもしげっています。

一番たくさん捕れる魚は何だと思う？

次の3つのうちのどれか手をあげてね。

1番、なまず、2番コイ、3番フナ

正解は、2番のコイです。

その次がフナ、そしてなまずです。

これは、フサモという藻を掃除しているところです。フサモは、水面に浮いていますが、どんどん水面をおおいつくしていき、川の底がくらくらくなって魚たちが寄りつかなくなるからで

す。藻が少なくなれば、水鳥たちも自由に泳いでエサをとることができるし、ゴミがたまったりしない美しい水の流れがいつまでもつづくことになり、美しい風景をつくることにもつながっていきます。

ヨシを焼いています。どうしてヨシを焼いているのか、その理由は、本に書いてありますので、読んでみてください。

他にも、三五郎さんが魚をとる大きな網も紹介されています。琵琶湖とともに暮らす三五郎さんの生活をこの本でのぞいてみてください。

大切な琵琶湖。琵琶湖は他のなにかとどっちが大事かなんて比べることができない私たちのたからものですが、

この『たからものくらべ』の本の中では、6歳のともこと4歳のたかしの姉弟が大きな箱を持ってきて、たからものの比べっこをします。どんなたからものをもっているか見てみましょう。

(p6、p16、p29 紹介)

(「お母さんに捨てられちゃったたからものたち」を紹介)

みんなも心当たりのあるものがきっとあったんじゃないかな。
もしも、大事なたからものがなくなったら、どうする？

「大好きなTシャツ」をなくしてしまい、Tシャツを探しに旅に出た男の子がいました。

今から新聞紙を使ったお話をします。

あるところに、男の子が住んでいました。ある日、男の子は、大好きなTシャツを洗濯して、干しました。

すると突然凄い風が吹いてきて、大好きなTシャツは空に吸い込まれるようにどこかにとんでいってしまいました。

困った男の子は、帽子をかぶり、大事なTシャツを見つける旅に出ることにしました。

まず男の子は、山を探しにいきました。「いっちに、いっちに。ぼくのTシャツでておいで～。いっちに、いっちに。」

けれども、山では見つからなかったので、男の子は船にのって、海を探すことにしました。

ところが、空が急に暗くなったかと思うと、激しい風と雨が船をおそいました。男の子の船は、傷つき、帆は折れてしまい、ボロボロになった船は海のもくずとなって沈んでしまいました。男の子は見知らぬ島に流れつき、浜辺で気が付きました。「ここはどこだろう」見ると、そばに何かが落ちています。

「あれ、これは、ひょっとして・・・」「ぼくのTシャツだ！」

こうして男の子は、無事にTシャツを見つけることが出来ました。おしまい。

今のおはなしは、Youtubeに載っています。本で読みたい人は少し難しいけれど、この本の中の「火事」という新聞紙を使ったおはなしを参考にしてみてください。

男の子は、流れ着いた島で自分の大事なたからものの T シャツを見つけました。人が住まない無人島では、たからものが見つかることもあります。

『くろグミ団は名探偵』に出てくる探偵グループのフィリップとカーローとフローの3人は、お城の屋根裏部屋で古い3枚の紙を見つけます。

見つけた3枚の紙をつなぎあわせてみると、なにやら、島の輪郭のようにみえました。3人は地図で似たかたちの島を探してみました。

その島は、グロツテンズント島という無人島でした。

つなぎあわせた、地図の中の2本の点線が交差する×が、何かがあるに違いない！と思った3人は、まずは、この地図を作った人物の手がかりとして、余白に書かれているイニシャル（頭文字）の“CM”が何を示すのか、海を航海する船などについて展示されている海上交通博物館に行ってみることにします。

博物館の暗い地下のフロアには、古い船の模型や船の首に飾られていた胸像がたくさんならべられていました。

実は、この本の全見開きのページには、左のページに文章が、そして右のページには絵が描かれているのですが、左のページの最後に問題が書いてあります。

その問題の部分を読んでみます。

（p62～63 読む）

この問題を解かないと、次のページへと進めないのですが、その謎をとくカギは、絵の中にかくされているので、絵をよく見ると、答えが分かります。

実は、このイニシャルの持ち主は、海賊だったのです。

みんなも、クログミ団の仲間たちと一緒に謎を一つひとつ解きながら、海賊がかくしたたからものを見つけ出してください。

この本は、1冊に4つのお話が入っていますので、面白そうだな、と思うお話から読んでも大丈夫です。

海賊は、金や銀、そして宝石などのお宝をいっぱい残していますが、宝石のように、金色や虹色に輝く、たからもののような生き物がいるのを知っていますか。

『よくみてみよう 虫は宝石』

この本には、虫ということをおぼえてしまうほど、美しい色や模様の虫がたくさんっています。

（扉、p10、p19、p23 紹介）

カメムシは、敵に見つかったら、臭いにおいを出して追い払います。

みんなの身近にいる小さな虫でも、よくみると、宝石のような虫が見つかるかもしれません。

遠い北の国の宮殿のかべには何やら不思議なたからものがずらりとならんでいました。

『つばさをもらったライオン』

みんなも本でたくさんたからものをみつけてほしいなと思っています。

これで今日のブックトークはおしまい。

平成31年（令和元年）度 小学4年生ブックトーク プログラム

たからもの

1. 『とどろけ淵^{ふち}のメッケ』 富安陽子／作（校成出版社）
2. 『おじいちゃんは水のにおいがした』 今森光彦／著（偕成社）
3. 『たからものくらべ』 杉山 亮／作（福音館書店）
4. 「ぼくのTシャツを探して」＊『おはなしおばさんの小道具』（一声社）
5. 『くろグミ団は名探偵 消えた楽譜』 ユリアン・プレス／作・絵（岩波書店）
6. 『ムシとあそぼう海野和男のムシシシシ⑤よくみてみよう虫は宝石』
海野和男／写真・文（新日本出版社）
7. 『つばさをもらったライオン』 クリス・コノヴァー／作（ほるぷ出版）

担当：伊藤

